



◀ MiPOX ▶

第96期 ビジネスレポート

2025年4月1日～2026年3月31日

「塗る・切る・磨く」に未来の付加価値を

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素よりマイボックス株式会社に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2025年11月21日をもちまして、大正14年の創業から数えて100周年という記念すべき大きな節目を迎えることができました。この一世紀にわたる歩みは、激動する社会情勢や経済環境の変化の中にあっても、常に当社を信頼し、温かいご支援を寄せ続けてくださった株主の皆様が存在があったからこそ成し得たものでございます。これまでの多大なるご愛顧に対し、全役職員を代表して心より深く感謝申し上げます。

100周年という記念の年にあたり、当社は長年親しまれてきた「Mipox株式会社」から「マイボックス株式会社」へと商号を変更し、あわせてコーポレートロゴの刷新を行いました。カタカナ表記への変更は、私たちが培ってきた技術と企業の存在意義を改めて見つめ直し、すべてのステークホルダーの皆様にとってより親しみやすく、開かれた企業へと進化していく強い意志の表れでございます。これまでの歴史を重んじながらも、過去の成功にとらわれることなく、次の100年へ向けて力強くリスタートを切るための決意をここに込めました。

第96期 業績サマリー

売上高	12,059百万円
営業利益	579百万円
経常利益	613百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	505百万円
1株当たり当期純利益	36.22円
1株当たり純資産	642.18円
自己資本当期純利益率 (ROE)	5.8%

次の100年へ紡ぐ、当社の存在意義とコア技術

当社は「塗る・切る・磨く」の3つのテクノロジーをコア技術として磨き続け、世界最高水準のソリューションを提供してきたモノづくり企業です。私たちの社会的使命は、100年の節目に定めた新たな声明である「イノベーションに磨きをかける。」、そして日本に古くから伝わる「つゆはらい」という言葉に象徴されます。お客様が進む未来の先に立ち塞がる課題を先回りして取り除き、まだ来ない誰かが躓かないように解決しておくこと。これこそが、マイボックスの果たすべき社会的責任であり、存在意義であると考えております。

現在、当社の事業は、最先端の研磨製品を自社で製造・販売する「製品事業」と、お客様から材料をお預かりして独自の技術で高付加価値な加工を行う「受託事業」の2つの柱で構成されています。特に近年、エレクトロニクス業界では生成AI（人工知能）の台頭による世界的な劇的な変化が起きています。膨大なデータを瞬時に解析・処理するAIサーバーや、それらを格納するデータセンターの設備増強は世界規模で急加速しており、これに伴って超精密加工用研磨フィルムをはじめとする当社のハイテク関連製品の需要が大きく伸び、グループの業績を力強くけん引いたしました。

当期の業績振り返りと、課題への対応

当連結会計年度の業績におきましては、生成AIの活況を背景としたハイテク関連分野が売上を大きく伸ばしたことで、営業利益、経常利益、当期純利益のすべてにおいて黒字化を達成いたしました。

一方で、期の前半におきましては世界的な輸送費の高騰や、米国関税をめぐる地政学的な変化といった外部要因が一時的な逆風となり、利益面が減速する局面がございました。しかしながら、これらは一過性の課題であり、下期に向けて物流ルートの最適化や適切な価格転嫁、コストコントロールの徹底を迅速に進めた結果、課題は順調に解消・好転へと向かいました。システム関連費用や人件費などの販売管理費の増加、為替差損の影響を受けつつも、下期にかけて確かな挽回を果たし、次期（来期）に向けた強固な収益基盤と明るい見通しを確保することができました。

また、「受託事業」においては、お客様の最終製品の仕様変更等に伴い、受託量が減少して減収となりましたが、私たちはこれを構造改革の好機と捉えました。拠点を越えた人員配置の最適化や装置の共有化を徹底することで固定費を削減し、当下半期は試作を中心とした柔軟な稼働体制へと切り替えております。加工そのものに高度な付加価値を付ける「エンジニアリング事業」への移行により、次期以降の収益力向上に向けた布石を着実に打っております。

M&Aとカルチャーが織りなす「100年ベンチャー」の成長戦略

私たちが激しい市場の変化や地政学的リスクといった外部環境の荒波を好機に変え、持続的な成長を実現するための両輪が「M&A戦略」と「カルチャー（企業風土）戦略」です。

当社のM&Aは、規模の拡大のみを追求するものではありません。ドメイン技術である「塗る・切る・磨く」の可能性を拡張し、お客様へより高品質で幅広いソリューションを提供するための投資であると同時に、国内の製造業が直面している「後継者不足」や「事業承継」の課題に対し、業界再編を主導することで、我が国の尊い技術基盤を次世代へと守り抜く社会的使命も果たしています。近年では、製造工程における環境負荷を圧倒的に低減する「IH粉体塗装システム」の技術譲受や、法人向けITサービス・DX推進に強力な強みを持つthomas株式会社との資本業務提携など、モノづくりの枠を超えた新領域への進出を進めております。

そして、これらの戦略を根底で支えているのが、大正14年の創業以来脈々と受け継がれてきた「100年ベンチャー」としてのカルチャー戦略です。私たちは、変化に対してアジャイル（俊敏）に適應できる組織づくりを徹底してきました。リスクをいち早く予見し、国内外のネットワークを活かして栃木県の鹿沼事業所へ生産体制を迅速に集約させた柔軟な現場力は、まさにこのカルチャーの賜物です。

マイボックスには、多様なバックグラウンドを持つ人材が集まり、互いの経験や知見をオープンに教え合うという企業風土がございます。私たちが10年以上かけて自社の製造現場で培ってきた「デジタル最優先（デジタル・ファースト）」のノウハウを内に囲い込まず、広く社会へ提供しようとする決断に至ったのも、この「オープン」を尊ぶカルチャーがあったからに他なりません。過去の成功に固執せず、失敗を恐れずに変化を楽しみながら互いに高め合う組織文化こそが、他社には真似できない当社の強みの核心であり、次の100年を切り拓く成長のための源泉となります。

同時に、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ(ESG/SDGs)への取り組みも加速させています。環境(E)面では「IH粉体塗装システム」の社会実装推進をはじめ、太陽光発電による創エネ、ISO14001の認証取得などを維持・拡大。社会(S)面における安心・安全な労働環境の維持や有給休暇取得率の向上、ガバナンス(G)の徹底を通じて、社会から真に必要とされる企業であり続けたい。

2026年6月
マイボックス株式会社



代表取締役社長 渡邊 淳

商号変更及びコーポレートロゴ刷新

Mipox株式会社はマイボックス株式会社へ。

旧ロゴ・商号

mipox

Mipox株式会社

新ロゴ・商号

MIPOX

マイボックス株式会社

当社は2025年11月21日に創業100周年を迎えました。



これまでの歩みと実績をさらに発展させるべく、2025年10月1日にコーポレートロゴを刷新するとともに、従来の「Mipox株式会社」から、より発音しやすく親しみやすい「マイボックス株式会社」へと商号を変更いたしました。

新ロゴコンセプト「はみ出すことで見える価値」



当社は創業以来100年にわたり、既存の概念にとらわれない姿勢で、常に革新を追求してまいりました。新ロゴは、はみ出すことで新たな価値を発見する当社の挑戦的かつ責任ある姿勢を視覚的に示し、絶え間ないイノベーションへの取り組みを象徴しています。

2025年8月1日リリース

株式会社ウジケの全株式取得

株式会社ウジケの全株式を取得し子会社化。ウジケが長年培ってきた塗工や圧着の技術をもとにした受託事業、パフやパッドの製品事業の継続にあたり、これまでの事業基盤を尊重しながらサービス向上を目指す。



2025年9月5日リリース

ヴァンフォーレ甲府とスポンサー契約を締結

山梨県内で高い知名度と地域への影響力を有するJリーグ（J2）所属の「ヴァンフォーレ甲府」とスポンサー契約を締結。地域での認知度向上やブランド浸透、採用の強化など企業価値の向上を目指す。



2025年9月18日リリース

九州工業大学と半導体向け研磨フィルムの外観検査工程におけるAI自動化実証実験を開始

国立大学法人九州工業大学と、半導体用途研磨フィルムの外観検査工程を対象としたAI自動化技術の実証実験を開始。2025年3月26日に開催されたPoC（概念実証）報告会にて、その中間成果を発表。



2025年11月11日リリース

リフレクターブランド「Ref Lite（レフライト）」新製品に関するお知らせ験を開始

日本初のリフレクター（再帰性反射布）ブランド「Ref Lite」の薄型軽量リフレクターシリーズの新たなラインアップとして、「Ref Lite ウルトラライトリフレクターカラーシャインブラック」を販売開始。



2025年11月27日リリース

中高生と社員が共創するモノづくりプログラム「Mipox X Challenge Program」を始動

株式会社リバネスと、次の100年を見据えた人材の育成を目指す教育プログラム「Mipox X Challenge Program」を開始。2025年12月に開催されたサイエンスキャッスル2025で、特別企画として当プログラムを実施。



2025年12月18日リリース

結晶転位高速検査装置「XS-1 Sirius」の新8インチウェーハ評価対応開始

半導体結晶ウェーハ内部に存在する貫通転位プロファイルを高感度かつリアルタイムに可視化する「XS-1 Sirius」において、8インチウェーハの評価対応を開始。



半導体ウェーハの12インチ受託加工へ本格参入、CMPラインの構築完了

(2026年3月12日)

本ラインの構築により、従来の試作案件を中心とした小中口径ウェーハに加え、先端デバイス領域で需要が高まる12インチウェーハのCMP研磨加工体制を大幅に強化いたしました。さらに、「接合（ボンディング）工程」の設備拡充を並行して推進しています。

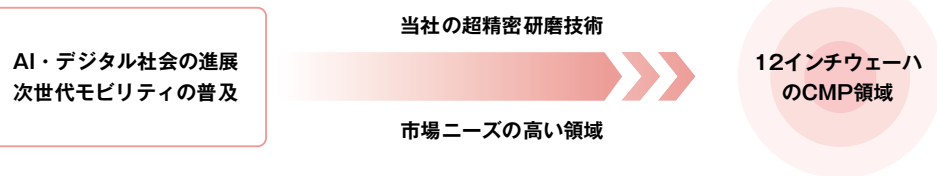


研磨から接合までを一貫して担う
「トータルファクトリーサービス」を提供

12inch対応CMP
12inch対応洗浄
12inch対応原子力炉内接合

背景

デバイスの高性能化に伴う12インチCMP市場への対応



今後の展望

接合工程の拡充と3次元実装への寄与

体制確立予定	2027年3月期（来期）中
提供価値	「研磨」から「接合」までの一貫体制を構築することで、TSV（シリコン貫通電極）などを活用した次世代3次元実装への対応を可能にします。 チップの積層化など最先端のパッケージング技術を求めるお客様の課題解決に寄与いたします。

イタリアのレーシングチーム「VSR」との戦略的パートナーシップ締結

(2026年3月19日)

当社は、イタリアを拠点とするレーシングチーム、Vincenzo Sospiri Racing（以下、VSR）とともに、2026年の「ランボルギーニ・スーパートロフェオ・アジア・チャンピオンシップ」への参戦、および戦略的パートナーシップを締結いたしました。



ランボルギーニ・スーパートロフェオ・アジア
への参戦を通じた、当社ブランド力の強化

Vincenzo Sospiri Racingについて

イタリアのフォルリに拠点を置く 世界クラスのGTレーシングチーム

元F1ドライバーで世界チャンピオンでもあるヴィンチェンツォ・ソスピリによって設立・率いられる同チームは、ランボルギーニ・スクアドラ・コルセ・ファミリーのベンチマーク（指標）となる存在である。

本件の概要

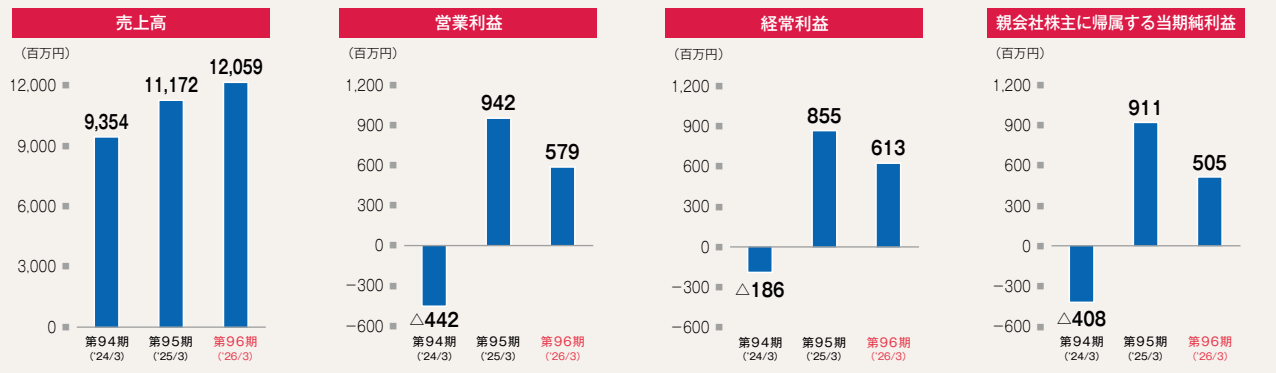
概要	2026年の「ランボルギーニ・スーパートロフェオ・アジア・チャンピオンシップ」に参戦するVSRのPro-Amクラスエントリーを全面的に支援。
業績に与える影響	本件による2026年3月期の連結業績に与える影響は軽微。

ランボルギーニ・スーパートロフェオ・アジア 2026

チーム	VSR（パートナーシップ）
戦績	第1ラウンド（4/25・26 マレーシア） ●第1戦：プロアマクラス優勝（総合優勝）、プロクラス3位 ●第2戦：プロアマクラス優勝（総合2位）、プロクラス3位
	第2ラウンド（5/23・24 中国） ●第3戦：プロアマクラス優勝、プロクラス2位（総合2位） ●第4戦：プロアマクラス優勝（総合2位）、プロクラス2位
今後の展開	6月開催の第3ラウンド（日本）を経て、後半戦へと続いていきます。

連結決算の概況

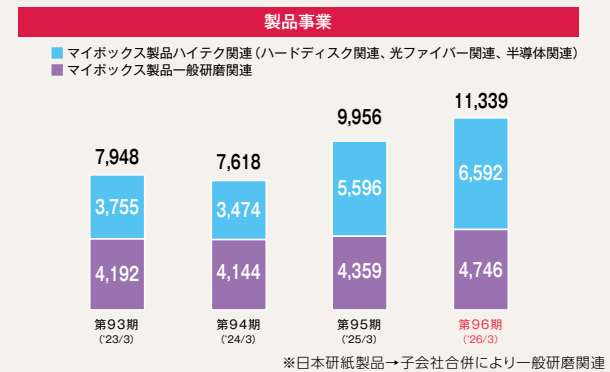
連結損益計算書の概要



POINT

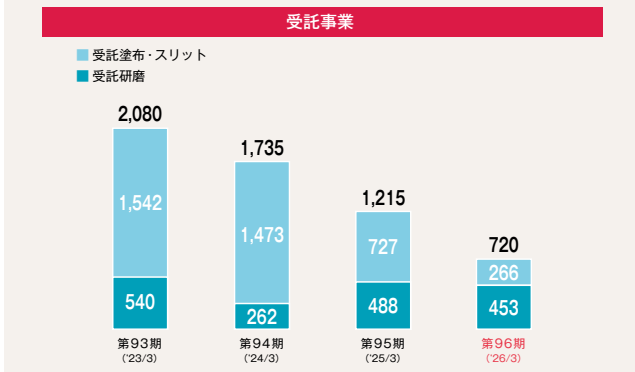
原材料やエネルギーコストの高騰の影響を受けるものの、世界的なAIサーバー投資から、抑制されていた汎用データセンター投資が増加傾向となり、データセンター向け光ファイバー及びハードディスク市場の拡大が牽引したことによって、ハイテク関連製品を中心に売上高が堅調に推移しました。ベースアップによる人件費の増加やJ-ESOP関連費用の計上などの人的投資の他、設備投資や研究開発投資などの投資を実施する一方、一時的な輸送コストの影響等も発生しました。その結果、当連結会計年度における当社グループの業績は売上高120億59百万円（前年同期比7.9%増）、営業利益は5億79百万円（前年同期比38.5%減）、経常利益は6億13百万円（前年同期比28.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は5億5百万円（前年同期比44.5%減）となりました。

セグメント別売上高 (単位：百万円)



POINT

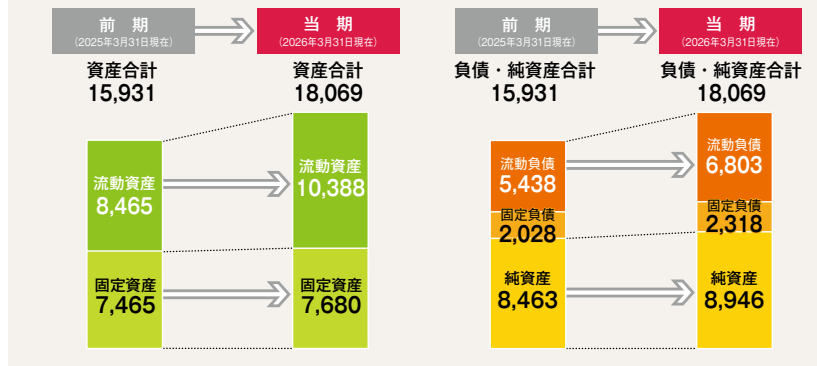
ハイテク関連製品は、AI・データセンター投資によるデータネットワーク分野が依然好調で、HDD関連及び光ファイバー関連の売上高は高水準で推移しました。また、一般研磨関連製品は、主要顧客向け出荷の増加や競合製品からの切り替えの進展等を背景に、各用途ともに売上高は堅調に推移しました。その結果、売上高は113億39百万円（前年同期比13.9%増）となりました。



POINT

材料費の高騰など市場環境の変化や顧客動向の変化により、量産案件の減少や新規試作案件の獲得に苦戦した影響で、売上高は低調に推移し、7億20百万円（前年同期比40.8%減）となりました。

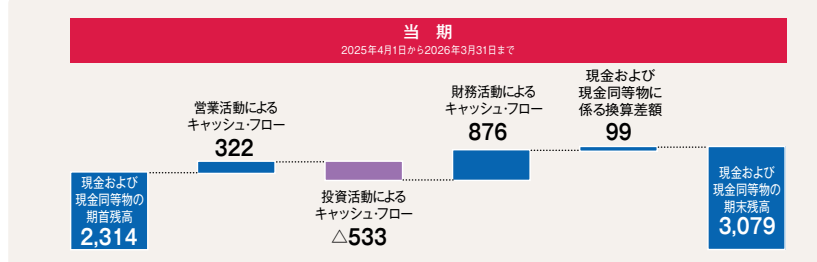
連結貸借対照表の概要 (単位：百万円)



POINT

総資産は現金及び預金、売掛金、たな卸資産、有形固定資産、投資有価証券の増加により180億69百万円となりました。負債は支払手形及び買掛金、短期借入金、リース債務、繰延税金負債の増加および1年内返済予定の長期借入金の減少等により91億22百万円となりました。純資産は親会社株主に帰属する当期純利益、為替換算調整勘定の増加、配当金の支払による利益剰余金、自己株式の増加による減少によりの89億46百万円となりました。

連結キャッシュ・フローの概要 (単位：百万円)



POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益、減価償却費、負ののれん発生益等により3億22百万円の増加となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得、投資有価証券の取得による支出、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入により5億33百万円の減少となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増額、長期借入れによる収入、長期借入金の返済による支出等により8億76百万円の増加となりました。

当社の事業と製品

製品事業

研磨材の開発・製造・販売を行っております。超精密研磨から一般研磨、装置や反射材など、世界中の幅広い用途に向けて当社製品を提供しております。

- 研磨フィルム
- 液体研磨剤
- 研磨関連製品
- 研磨布紙製品
- 研磨砥石製品
- 研磨周辺機器
- 検査装置
- 再帰性反射材 (Ref Lite)
- ヤスリ製品
- IH粉体塗装

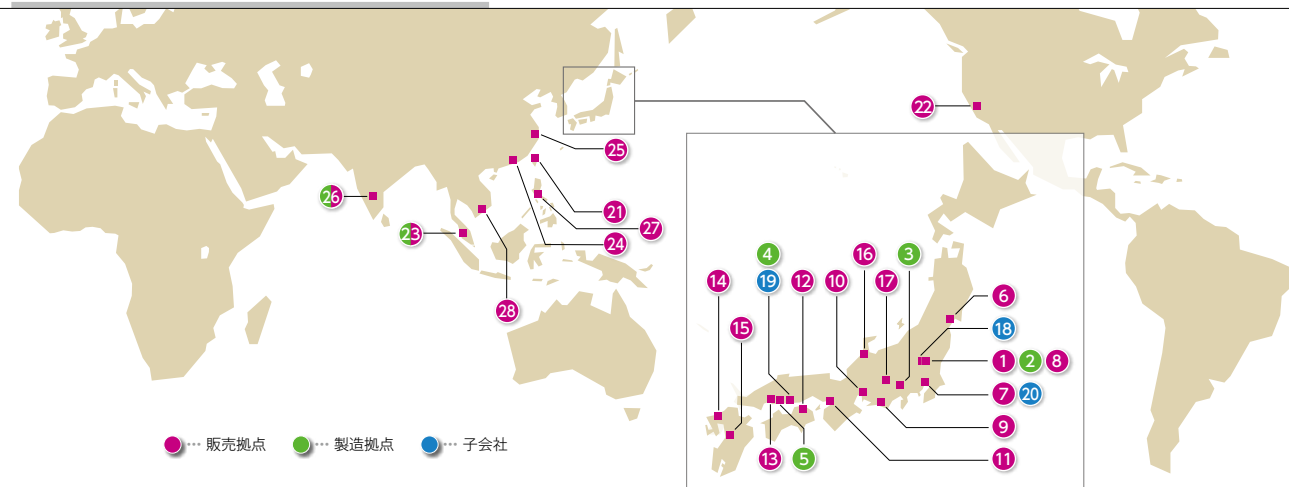
受託事業

【受託研磨加工】
半導体ウェーハをはじめとする材料を顧客より預かり、当社が保有する設備（研磨装置、洗浄機、検査装置）と独自の研磨材を用いて、要望に沿った研磨加工を提供しております。

【受託コーティング・スリット】
顧客の基材（フィルム等）や塗料材を預かり、当社が保有する設備（調合、コーティング、スリット）を用いてフィルム化、裁断を行っております。

- 塗布加工
- 研磨加工
- スリット加工
- 常温接合加工
- 検査

グループ各拠点 (2026年4月1日現在)



国内拠点

- ① **マイボックス株式会社**
創業 1925年11月21日
代表者 代表取締役社長 渡邊 淳
資本金 33億7,956万円 (2026年3月31日付)
所在地 〒322-0014
栃木県鹿沼市さつき町18
- ② 工場 鹿沼事業所 (栃木県鹿沼市さつき町18)
- ③ 工場 北社事業所 (山梨県北杜市大泉町西井出8566)
- ④ 工場 福山事業所 (広島県福山市草戸町3-13-25)
- ⑤ 工場 呉ベース (広島県呉市仁方棧橋通1511番65)

- ⑥ 営業所 仙台オフィス
- ⑦ 営業所 丸の内オフィス
- ⑧ 営業所 鹿沼オフィス
- ⑨ 営業所 浜松オフィス
- ⑩ 営業所 名古屋オフィス
- ⑪ 営業所 大阪オフィス
- ⑫ 営業所 高松オフィス
- ⑬ 営業所 福山オフィス
- ⑭ 営業所 北九州オフィス
- ⑮ 営業所 熊本オフィス
- ⑯ 営業所 金沢オフィス
- ⑰ 営業所 伊那ベース
- ⑱ 子会社 有限会社大久保鉄工所 (栃木県宇都宮市瑞穂3-6-13)
- ⑳ 子会社 ミスミ化学株式会社 (広島県福山市草戸町3-13-25)



本社

海外拠点

- ⑲ **Mipox Corporation Taiwan Representative Office (MIT)**
設立 2014年1月28日
所在地 2F.-6, No.231, Fuxing 2nd Rd., Zhubei City, Hsinchu County 302, Taiwan
- ⑳ **MIPOX International Corporation (MIC)**
設立 1989年11月1日
所在地 1730 S. Amphlett Blvd, Suite 105, San Mateo, California 94402 U.S.A
- ㉑ **MIPOX Malaysia Sdn. Bhd. (MMS)**
設立 1997年8月9日
所在地 No.7&9, Lintang Bayan Lepas 2, Bayan Lepas Industrial Park Phase 4, 11900 Bayan Lepas, Penang, Malaysia
- ㉒ **MIPOX (Shanghai) Trading Co., Ltd. SHENZHEN BRANCH**
設立 2020年3月17日
所在地 1426, 14/F, Times Financial Centre, No.4001 Shennan Avenue, Futian District Shenzhen 518046 P.R. China
- ㉓ **MIPOX (Shanghai) Trading Co., Ltd. (MST)**
設立 2012年2月7日
所在地 Room 1609, 16th Floor, 688 Nanjing West Road, Jingan District, Shanghai, China 200041
- ㉔ **MIPOX Abrasives India Pvt. Ltd. (MAI)**
設立 2012年7月20日
所在地 Plot 102-A Somapura Industrial Area, Nelamangala Taluk, Bengaluru-562132 Karnataka, India
- ㉕ **MIPOX Malaysia Sdn. Bhd. Philippine Representative Office**
設立 2013年12月13日
所在地 Unit 1206, 12/F The Trade & Financial Tower, 32Nd St. Cor. 7th Avenue., Bonifacio Global City, Taguig City 1634, Philippines
- ㉖ **The Representative Office of MIPOX Malaysia Sdn. Bhd. in Ho Chi Minh City**
設立 2016年10月17日
所在地 Fl.2, Ha Do Airport Building - 02 Hong Ha St., Tan Binh Dist, Ho Chi Minh City, Vietnam

会社情報 / 株式情報

会社情報 (2026年3月末現在)

- **会社概要**
- 商号 マイボックス株式会社
- 創業 1925年11月21日
- 代表者 代表取締役社長 渡邊 淳
- 資本金 33億7,956万円
- 所在地 〒322-0014
栃木県鹿沼市さつき町18
- 事業内容 ①研磨関連製品の製造販売
②研磨関連材料ならびに研磨関連機器の製造販売
③研磨加工業務およびそのコンサルタント業務
④機能性フィルムの製造販売
⑤コンバーティング業務の請負
⑥機能性材料製造に利用される「塗る」・「切る」・「磨く」に関連した製品製造、受託製造、コンサルタント業務などの一切の業務

役員 (2026年6月23日現在)

- 取締役 代表取締役社長 渡邊 淳
- 取締役 中川 健二
- 取締役 上谷 宗久
- 社外取締役 加藤 洋美
- 社外取締役 宮崎 健輔
- 監査役 常勤監査役 伊東 知裕
- 社外監査役 南出 浩一
- 社外監査役 厨川 常元

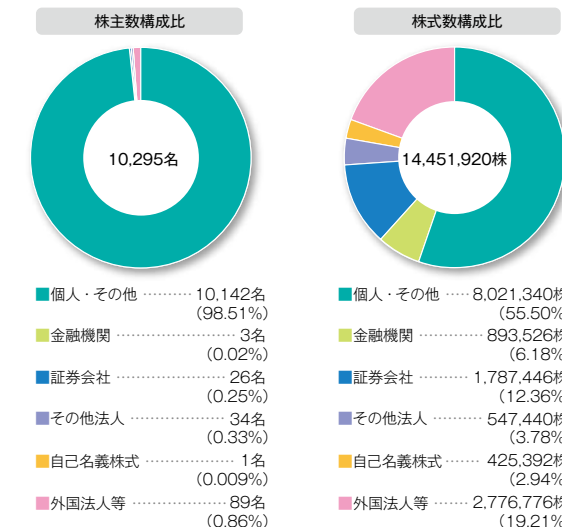
株式情報 (2026年3月末現在)

- 発行可能株式総数 42,780,000株
- 発行済株式の総数 14,451,920株
(自己株式 425,392株を含む。)
- 株主数 10,295名
- 大株主

	株主名	持株数	持株比率
1	モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社	839,359株	5.98%
2	INTESA SANPAOLO SPA (EX BANCA INTESA) CLIENTS OMNIBUS ACCOUNT	678,000株	4.83%
3	渡邊 淳	664,000株	4.73%
4	GOLDMAN, SACHS & CO. REG	650,000株	4.63%
5	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	529,600株	3.78%
6	株式会社みずほ銀行	460,416株	3.28%
7	J P モルガン証券株式会社	376,800株	2.69%
8	株式会社日本カストディ銀行(信託口)	338,400株	2.41%
9	岩崎 泰次	333,700株	2.38%
10	ジェイマネジメント株式会社	320,000株	2.28%

(注) 1. 当社は自己株式425,392株を保有しておりますが、上記には含めておりません。
2. 持株比率は、自己株式(425,392株)を控除して計算しております。

株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで	
剰余金の配当の基準日	期末配当金 毎年3月末日 中間配当をする場合は、毎年9月末日	
定時株主総会	毎年6月開催	
公告方法	電子公告（ https://www.mipox.co.jp/ ） ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。	
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	
	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合（特別口座の場合）
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行ならびにみずほ銀行の本店および全国各支店（みずほ証券では取次のみとなります）	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

ホームページのご案内

▼マイボックス株式会社ホームページ
<https://www.mipox.co.jp/>



▼IRサイト
<https://www.mipox.co.jp/ir.html>



ご意見お待ちしております

✉ mipoxir_dept@mipox.co.jp



マイボックス株式会社

Mipox Corporation

〒322-0014 栃木県鹿沼市さつき町18
<https://www.mipox.co.jp/>

